

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-17	高等学校	公民科	現代社会	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	現社 319	改訂版 現代社会		

<h3>1. 編修の趣旨及び留意点</h3> <p>(1) 教育基本法や学習指導要領における目標が達成されるよう、学習指導要領の内容や、その取扱いに示された事項に準じて編修した。</p> <p>(2) 現代社会に対する関心を深めて学習意欲を高めることができるようにし、正確な知識を習得して、日常生活や社会と積極的にかかわることができるようになることに留意して編修した。</p>													
<h3>2. 編修の基本方針</h3> <p>(1) 社会と人間に関する基本的な問題の学習をとおして、人間としての在り方生き方についてみずから考える力を養えるようにし、また社会に対して主体的に寄与しようとする態度を育成できるように配慮した。</p> <p>(2) 本文の記述にあたっては、学習内容を正確に理解できるよう、可能なかぎり平易に、かつ簡潔になるよう配慮した。</p>													
<h3>3. 対照表</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">図書構成・内容</th> <th style="width: 50%;">特に意を用いた点や特色</th> <th style="width: 25%;">該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">第1編 第1章</td> <td>自然の生態系が持つ特徴や人類の活動が自然に与える影響を知り、地球規模で環境保全に取り組んでいかなければならないことを気付かせるような構成にした(第4号)。</td> <td>6～15 ページ</td> </tr> <tr> <td>生命科学やバイオテクノロジーの発展にともない提起されてきたさまざまな問題について、多様な角度から考察できるような構成にした(第4号)。</td> <td>26～33 ページ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第1編 第2章</td> <td>青年期の持つ意義や自己形成の課題について考えさせるとともに、将来の職業と生活を視野に入れながら青年としての生き方について自覚を深めさせるように展開した(第2号)。</td> <td>42～51 ページ</td> </tr> <tr> <td>「善く生きること」「理性的に生きること」を目指した先人の思索を紹介するとともに、その先人たちがどのように社会に対していたかを考察できるようにした(第1号)(第3号)。</td> <td>52～73 ページ</td> </tr> </tbody> </table>	図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	第1編 第1章	自然の生態系が持つ特徴や人類の活動が自然に与える影響を知り、地球規模で環境保全に取り組んでいかなければならないことを気付かせるような構成にした(第4号)。	6～15 ページ	生命科学やバイオテクノロジーの発展にともない提起されてきたさまざまな問題について、多様な角度から考察できるような構成にした(第4号)。	26～33 ページ	第1編 第2章	青年期の持つ意義や自己形成の課題について考えさせるとともに、将来の職業と生活を視野に入れながら青年としての生き方について自覚を深めさせるように展開した(第2号)。	42～51 ページ	「善く生きること」「理性的に生きること」を目指した先人の思索を紹介するとともに、その先人たちがどのように社会に対していたかを考察できるようにした(第1号)(第3号)。	52～73 ページ
図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所											
第1編 第1章	自然の生態系が持つ特徴や人類の活動が自然に与える影響を知り、地球規模で環境保全に取り組んでいかなければならないことを気付かせるような構成にした(第4号)。	6～15 ページ											
	生命科学やバイオテクノロジーの発展にともない提起されてきたさまざまな問題について、多様な角度から考察できるような構成にした(第4号)。	26～33 ページ											
第1編 第2章	青年期の持つ意義や自己形成の課題について考えさせるとともに、将来の職業と生活を視野に入れながら青年としての生き方について自覚を深めさせるように展開した(第2号)。	42～51 ページ											
	「善く生きること」「理性的に生きること」を目指した先人の思索を紹介するとともに、その先人たちがどのように社会に対していたかを考察できるようにした(第1号)(第3号)。	52～73 ページ											

	先人の思索を紹介し、日本の生活文化や伝統とあわせて、生徒自身の価値観や生き方に与えている影響について気付かせるよう配慮した（第5号）。	74～84ページ
第2編 第1章	日本国憲法にうたわれた理念やさまざまな権利について紹介するとともに、他者と共に生きる社会の実現にむけてどのようなことが大切なのかに気付かせるよう配慮した（第2号）。	102～121ページ
	日本国憲法にうたわれた平和主義の理念について紹介するとともに、その理念に基づき、日本人として、国際社会の平和に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第5号）。	122～131ページ
第2編 第2章	統治機構の基本的なしくみを理解することにより、現代の政治状況に対する見方を養うとともに、幸福・正義・公正の観点から解決策について考察できるような構成にした（第1号）（第3号）。	132～151ページ
	積極的に社会の形成に参画したり、政治に参加したりすることの重要性や意義を知り、これらに主体的に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第3号）。	152～167ページ
第2編 第3章	国際社会のしくみを理解するとともに、世界の政治をめぐる動向や日本との関係を概観しながら、日本人として、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第5号）。	168～194ページ
第3編 第1章	経済の基本的な理論やしくみを理解することにより、現代の経済状況に対する見方を養うとともに、幸福・正義・公正の観点から解決策について考察できるような構成にした（第1号）（第3号）。	196～233ページ
第3編 第2章	これまでの日本経済の進展とその変化を紹介するとともに、中小企業や地域の経済、また農業が果たす役割の大切さについて気付かせるよう配慮した（第5号）。	234～255ページ
	日本の労働法制について、その施行内容や改正内容を紹介し、勤労や男女共同参画の意義について理解を深めさせるよう配慮した（第2号）（第3号）。	266～273ページ
第3編 第3章	国際社会のしくみを理解するとともに、世界の経済をめぐる動向や日本との関係を概観しながら、日本人として、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第5号）。	282～303ページ

課題探究編	<p>現代社会が抱えるさまざまな課題を考察するにあたって、どのような観点が存在するのかを具体例をあげてわかりやすく示した（第1号）。</p> <p>日常生活や学習の過程で生じた疑問に対し、自発的に解明する態度を養えるようにした（第1号）。</p>	<p>304 ページ</p> <p>305～307ページ</p>
-------	---	----------------------------------

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 第1編においては、現代の社会がどのような社会であるのかについて、その特質や社会生活を客観的に理解させ、それらの理解の上に立って、青年期の持つ意義や自己形成の課題について考えさせるとともに、将来の職業と生活を視野に入れながら青年としての生き方について自覚を深めさせるように展開した。

第2節 資源・エネルギー問題

1 持続可能な社会への道

循環型社会の形成



○1 再利用のために回収された廃棄食品の山。国連食糧農業機関(FAO)による。

3Rとは何か。どのよ

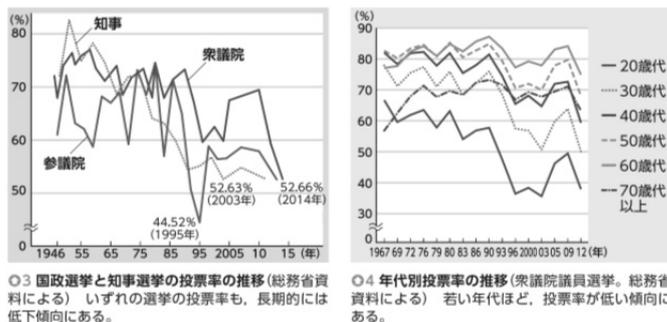
日本では、年間約1,700万ト
 されており、このうち、本来食
 ざれ廃棄されているもの(いわゆ
 間約500～800万トンと推計され
 の数値は、世界全体の食料援助
 本のコメ生産量に相当する。こ
 をなくすため、**食品リサイクル**

■青年と共生社会
 青年もいずれは必ず大人になるのであ
 って、反抗や抵抗だけで生きていくこと
 はできない。大人の社会や文化を批判し
 つつも、いずれそれらある程度受け入
 れ、社会の担い手になっていかなくては
 ならないのである。人間は、一人で生
 きているのではなく、多くの人々と共に生
 きているのであって、さまざまな活動に

■青年海外協力隊の一員として農業指導や
 教育活動にたずさわっている若者もいる。
 また、紛争や災害によって負傷者や病人
 が出たとき、援助を必要としている地域
 におもむき、**国境なき医師団**の一人とし
 て医療援助を行っている青年もいる。
 (→p.171)

■青年と男女共同参画社会
 こうした社会参加には、男女の区別は
 ない。男性と女性は互いに協力し合うこ

(2) 第2編においては、民主政治の意義と本質について、あくまでも、生徒が主体的に、自分自身の問題として考え、理解できるようにするため、幅広い立場の意見を紹介するように心がけた。また、困難な課題と試練に直面している世界と日本の中にあって、私たち一人ひとりに何ができるのか、何をなすべきなのかという問題意識を念頭に置いて解説するとともに、みずから積極的に参加するということの重要性が伝わるよう心がけた。



政治的無関心と投票率の低下

政治的無関心の原因は何であろうか。

こんにち、**政治的無関心**の拡大などによる投票率の低下が問題となっている。かつての無関心は、無知からくる伝統的無関心であった。一方、現代の無関心は、複雑化・専門化する政治の難しさや、個人では何もできないとい

(3) 第3編においては、経済分野の学習に、生徒がよりなじめるように、各所に身近な話題や図・グラフ・写真を配するように心がけた。経済活動のグローバル化が進展し、各国間の相互依存性がますます深化している今日、資本主義とその課題についての正確な知識がますます必要とされるという観点に立って、経済の基本的な概念や理論と日本の世界経済における役割を広い視野から考察するように心がけた。

グローバル化と現代の企業

グローバル化のなかで企業は何を進めているのだろうか。

こんにち、企業は安価な労働力と新たな市場を求めて、国境を越えてあらゆる地域に進出している。国際的な企業は、多くの国にそれぞれの国籍を持つ子会社や生産拠点(工場)を置いているので、**多国籍企業**とよばれる。この

企業名・国名	売上高・GDP額
アメリカ	162,446
日本	59,602
ベルギー	4,834
ロイヤル・ダッチ・シェル	4,817
ウォルマート・ストアーズ	4,692
オーストリア	3,945
BP	3,883
テリ	2,683
トヨタ自動車	2,657

○6 多国籍企業の売上高と各国のGDP額(億ドル)。2012年。[日本国勢協会]による

ような企業のグローバル化にともない、企業は世界的な規模での競争力強化をはかろうとしている。そのため現在では、

南北問題解決の課題

南北問題解決のためにどのような方法が考えられるだろうか。

M&A(合併 Merger and Acquisition) 企業グループの社組織の変再構築(リストラ)など

国連は、2000年にミレニアム開発目標(MDGs)を定め、八つの分野において数値目標を掲げている。この目標達成に向けて、国連の各機関は各国政府や民間セクター、非政府組織(NGO)などとの連携を強化している。南北問題の解決に向けては、ほかにも、人権や安全保障、軍備や核兵器の問題など、ただ単に経済課題の克服にかたよった方策だけではなく、包括的なアプローチが不可欠である。



○8 国際会議で途上国への支援を訴えるNGO政府によるアプローチには、国益重視のため十分な効果が見られない分野もある。一方、NGOの活動には、とくに貧困、人権、医療、環境などの問題に対して大きな成果が見られる。国際機関や国際会議などにメンバーやオブザーバーとして参加する例も増え、NGOは一定の発言力と影響力を持ちつつある。

(4) 課題探究編においては、現代の世界が抱えているさまざまな問題を生徒自身で考えていく力を養えるようにし、また社会に対して主体的に寄与しようとする態度を育成できるように配慮した。

課題探究編 共に生きる社会を目指して

1 課題探究の観点

■「持続可能な開発」とは

「持続可能な開発」という概念は、1980年代に広まった。当時の、先進国主導による環境保護論は、途上国の経済開発を阻害するものであった。途上国にとっては、それは受け入れがたいものであり、途上国と先進国はこの問題をめぐって対立していた。その途上国と先進国と同じ協議のテーブルにつく「共通の基盤」となったものが、「持続可能な開発」という概念である。これは、途上国における「経済開発」という基本的欲求を満たすと同時に、環境容量に対する「現在の世代」と「将来の世代」の公平性をはかることを目指している。

ところで、「開発」とはどのような意味だろうか。通常は「経済開発」を連想するが、ここでは、人間が実際に行動しようとする際に必要な知識を、閉ざされた状況から開かれた状況へと転換させる「人間開発」をも意味しているのである。

した教育学習活動である。

■「持続可能な社会」を作るためには

日本に住む私たちだけでなく、世界中の人々や未来に生きる世代も含め、誰もが安心して暮らすことのできる「持続可能な社会」を作るためにはどうしたらよいのだろうか。これを考えるうえでは、「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「世代間の公正」という三つの視点が重要となる。

【1】個人と社会

私たち個人が

幸福を追求する

これまで、現代社会が抱えるさまざまな問題について学習してきた。ここでは、それらの問題や今後降りかかってくるであろう問題に、どのように対処し、ど

服していけばよ

いのように解決していけばよいかについて、その方法

なってくる。

を学んでいくことにする。

【2】社会と社会

さまざまな問題や

2 課題探究・研究の手引き

▶ 2. 研究計画を立てよう

▶ 1. 課題(=研究テーマ)を設定しよう

問題が発見したら、それを解決すべき課題(=研究

テーマ)として設定することになる。自分の問題意識

は重要だが、それだけで探究すべき課題になるわけ

ではない。とくに重要なのは、下図の「できること」と

「必要とされている

こと」を十分に吟味

して研究テーマを設定することである。

図の三つが重なり合

ったところが、研究

テーマとなりうる

ところとなる。

やりたいこと 自分自身の関心のあること。こだわり

が強いほど探究の意欲が高まる。ただし、「できる

こと」を十分に考慮することなく、「やりたいこと」を



▶ 2. 研究計画を立てよう

研究としての構造を持った課題探究を行う場合、「何を明らかにするか」をはっきりさせる必要がある。何を明らかにするかを疑問文で表現し、それを中心にすえて研究計画を策定する。研究計画は、建物であれば骨組みにあたり、もっとも大切な部分である。

■研究の基本的な形

仮説検証型 仮説→検証(実験、調査、文献、アンケート)→結論

実態調査型 情報収集(文献、インタビュー、アンケート、実地調査)→分析→結論

■研究計画の策定

① テーマ(研究課題)

② テーマ設定の理由

- ・何が問題となっているのか。
- ・問題の説明とその背景。
- ・なぜ自分はその問題を取りあげたのか。

③ 先行研究

- ・これまで明らかになっていることは何か。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-17	高等学校	公民科	現代社会	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	現社 319	改訂版 現代社会		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 学習指導要領にあげられた項目に基づき、本文の内容を編・章・節に分けた。節内には小見出しをつけて、学習内容がはっきりわかるようにした。また、必要に応じてコラム (LECTURE) や副文 (比較・補足・参考・判例・LET'S STUDY), 脚注を設け、生徒の知識を深めたり、興味を広げたりすることができるようにした。

比較 他の事項との関連や同じ性格の事項について、事項間の類似点や相違点を整理・理解するための解説として設けた。

比較 **ES細胞とiPS細胞** iPS細胞は、皮膚などの体細胞から樹立できるため、ES細胞のように受精卵(胚)を損なうという問題はない。また、患者自身の細胞を利用すると、クローンES細胞と同様に再生医療での拒絶反応の問題を回避できる。なお、ヒトの体内に存在する成体幹細胞(体性幹細胞)も、iPS細胞と同様に、受精卵を損なうという問題がなく、拒絶反応の問題を回避できる。現在、いずれも実用化を目指した研究が急速に進展しており、開発競争も激化している。

名 称	由 来	多能性	倫理的問題	免疫拒絶
成体幹細胞	体内に存在する	なし	なし	なし
ES細胞	胚から作られる	あり	あり	ややあり
iPS細胞	体細胞から作られる	あり	ややあり	なし
クローンES細胞	体細胞と卵子から作られる	あり	あり	なし

◎3 幹細胞の比較

補足 本文に掲載された事項について、その内容をさらに深く理解するための解説として設けた。

補足 **累積債務問題** この問題は、とくに1980年代の中南米諸国で深刻化した。世界経済に深刻な影響を与えるので、途上国政府や多国籍銀行ばかりではなくIMFやIBRDも参加して、債務の繰り延べ(リスケジュール)などの対策がとられるようになった。しかし、債務の一部を肩代わりするIMFなど国際機関の融資条件(コンディショナリティ)が厳しいため、深刻な事態にあることに変わりはない。

国 名	対外債務 残高(億 ドル)	債務残高 対GNI比 (%)
 中 国	8,745	9.5
 ブラジル	4,825	21.9
 インド	4,276	23.0
 メキシコ	4,430	35.9
 トルコ	3,882	47.9

◎7 主な発展途上国の対外債務残高
(2013年末, 世界銀行資料による)

参考 時事的または高度な内容、あるいは歴史的な事項ではあるが、現代社会を理解する上での参考になるため、とりあげている事項を示す。

参考 **情報通信技術の発展** 現代の社会では、情報や知識に価値が見いだされ、その交換やコミュニケーションが大きな意味を持っている。このような社会は**情報化社会**とよばれ、21世紀は「情報・知識の時代」であるといわれる。新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど従来の**マスメディア**は、不特定多数の人々に大量の情報を一方的に伝えるものであったが、**情報通信技術(ICTあるいはIT)**の飛躍的な発展は、コンピュータとインターネットのようなネットワークによって、時間や距離の制約を受けることなく、大量の情報を双方向で瞬時に伝達することを可能にした。音声・文字・映像などさまざまな種類の情報をデジタル技術によって統合する**マルチメディア**も発達してきた。このような、情報通信分野の革新(イノベーション)(-p.198)による変化は、**IT革命**とよばれる。

○3 情報通信端末の世帯保有率とインターネットの人口普及率の推移(「情報通信白書」による)

判例 本文に掲載された内容に関する裁判事例などの解説として設けた。

判例 **死刑の合憲性** 死刑の合憲性については、死刑判決を受けた被告人が、死刑は残虐な刑罰であり、憲法第36条により当然廃除されたと主張した事件があった。それに対し、最高裁は1948年、刑罰としての死刑そのものが「残虐な刑罰」に該当するとは考えられないとして、死刑を合憲とした。なお国連は、1989年に死刑廃止条約を採択(1991年発効)しているが、日本は批准していない。

LET'S STUDY 本文に掲載された内容をふまえ、考察や計算に取り組むための問題として設けた。

LET'S STUDY

次の①～④の項目は、それぞれ国際収支の体系のどれに分類されるだろうか。また、国際収支が右表で表されるとき、経常収支はいくらの黒字または赤字になるか。

- ①ある国に滞在中の旅行者が現地で支払った土産物代
- ②音楽や映像などを複製・頒布するための使用権料
- ③在外日本公館が現地職員に支払う給与
- ④鉱業権(採掘する権利など)や商標権の権利の売買

貿易収支	-42.7
サービス収支	-40.3
第一次所得収支	141.3
第二次所得収支	-11.4
資本移転等収支	-0.8
金融収支	49.2
誤差脱漏	3.1

(2) 授業の展開を容易にし、かつ目的意識を持って学習できるように、各項目には、その項目の主要テーマについての「問いかけ」を設け、かつその「問いかけ」を「本文」の直前に入れることで、意味あるものにしようと思図した。

ストックとフロー

経済の状況を知るためにどのような指標があるのだろうか。

政府が経済政策を、企業が設備投資を、家計が消費を行うにあたっては、現在の経済状態と将来の経済動向についての分析や認識が不可欠である。経

(3) 現代社会の学習としてとりあげられている倫理，社会，文化，政治，法，経済，国際社会などに関する問題を個別的に説明するだけでなく，各所に参照ページを付して相互に有機的に学習できるようにした。

(4) 編ごとに「DISCUSSION」を設け，先生と二人の生徒の会話を軸としながら，社会の動向に対する生徒の興味や関心を引き出しつつ，問題点や解決策などについて生徒自身が主体的に，話し合ったり，考えてみたりすることができるようにした。



それだけでいいのかな。感染症の発生や拡大の背景として，発展途上国の人たちの生活環境の劣悪さが指摘されているよ。治療薬やワクチンの開発にはたくさんの費用がかかるから，発展途上国の人たちが手に入れるのは難しいんじゃないかな。社会や経済の問題にも目を向けていかなければいけないよ。



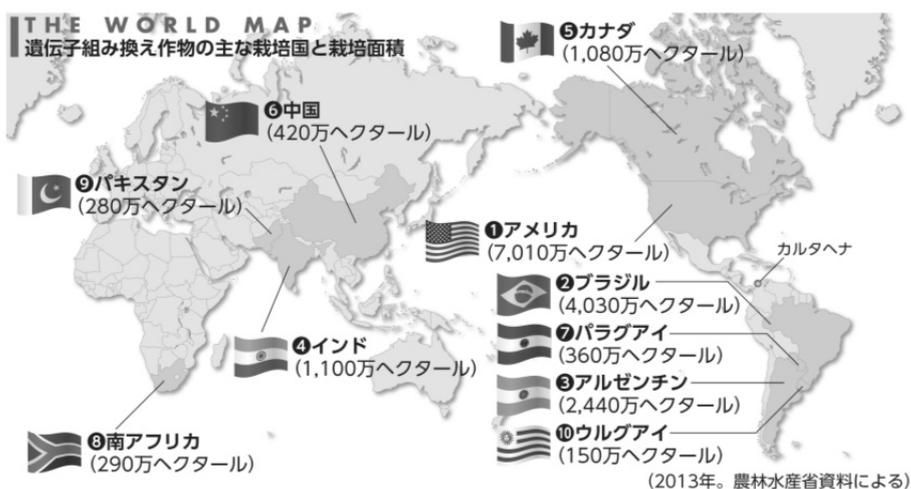
グローバル化の進展は，経済成長をもたらした反面，格差の拡大や富の偏在を招いたともいわれています。とくに後発発展途上

2013年に国連で行った演説を知りました。「一人の子ども，一人の教師，一冊の本，そして一本のペンが，世界を変えられる」ということばに感動しました。地球規模の問題を解決するための基本的な条件は，発展途上国の女性や子どもたちの人権が保障されることだと思います。



「地球規模で考えて，地域レベルで行動する」っていわれますよね。地域の住民や消費者として，グリーン・コンシューマーや3Rの活動に参加したり，フェアトレード商品に注目したりしたいと思います。

(5) 多色刷りを効果的に利用し，工夫された図表，イラストや写真などを盛り込むことにより，複雑な内容を容易に理解・把握できるようにするとともに，生徒が興味を持って学習できるようにした。また，世界や日本の地図を用いた「THE WORLD MAP」を多く設け，生徒が巨視的な観点から，傾向や配置，分布をつかみ，考えられるようにした。



(6) 本文の学習を進めるにあたって必要な，日本国憲法を巻末の参考資料として掲載した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 現代の社会と人間 第1章 私たちの生きる社会	(1) 私たちの生きる社会	6～41ページ	12
第2章 青年期と自己の形成	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 ア 青年期と自己の形成	42～84ページ	8
第2編 現代の政治と法 第1章 個人の尊重と法の支配	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 ウ 個人の尊重と法の支配	86～131ページ	7
第2章 現代の民主政治と政治 参加の意義	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 イ 現代の民主政治と政治 参加の意義	132～167ページ	7
第3章 国際政治の動向と日本 の果たすべき役割	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 オ 国際社会の動向と日本 の果たすべき役割	168～194ページ	6
第3編 現代の経済 第1章 現代の経済社会と経済 活動のあり方	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 エ 現代の経済社会と経済 活動の在り方	196～233ページ	7
第2章 日本経済の進展と国民 生活	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 エ 現代の経済社会と経済 活動の在り方	234～281ページ	7
第3章 国際経済の動向と日本 の果たすべき役割	(2) 現代社会と人間としての の在り方生き方 オ 国際社会の動向と日本 の果たすべき役割	282～303ページ	6
課題探究編 共に生きる社会を 目指して	(3) 共に生きる社会を目指 して	304～307ページ	10
		計	70